

これまでのお話は、イエス様の伝道の様子や弟子たちにご自身を示すことが中心に描かれていました。本日の箇所は、マルコの福音書の転換点と言える箇所です。イエス様は直接弟子たちに聞いています。

1. 人々のイエス様像 (27-28 節)

ピリポ・カイサリアの村々に出かけられました。この町はヘロデ・ピリポによって建てられた街です。イエス様が聞きました。「人々は私を誰だと言っていますか。」 私たちは何と答えるのでしょうか？

イギリスの新約聖書学者リチャード・ボウカム先生はイエス様についてイントロで言っています。

*「イエスほど芸術、文学、音楽、そして映画にまでもインスピレーションを与えた人物はいない。イエスの肖像は、ビザンティンやロシアのイコン美術、エチオピアの教会美術、中世のヨーロッパの彫刻やステンドグラス、ルネッサンスの絵画、アフリカ、ラテン・アメリカ、そしてインドのキリスト教美術など実に多彩な伝統の中で描かれてきた。」**「1960年代、死海文書研究者のジョン・アレグロは、イエスという名は実は、幻覚性キノコの暗号名だったと主張した！」***「イエスを巡る過激な憶測から飛び出すこのような珍説が現れては消え、そして忘れられていく。」(『イエス入門』14-16頁)。

でたらめ珍説が出ては消えます。でたらめが出るのもイエス様の偉大性を表しているのです。

2. 弟子たちのイエス様像 (29 節)

ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」と。(マタイ 16:16)

マルコにとっては、弟子たちのイエス様への認識が大事な事でした。イエス様がキリスト・メシアである事の中で、栄光に輝く王の姿よりも、十字架に向かうことをより強調しています。

キリストの意味は、メシアで「油注がれた者」です。旧約聖書によれば、王、祭司、預言者です。イエス・キリストはこの三つの職務を持つお方です。「王」として君臨し、民を統治し、養います。「祭司」として人を神に執り成します。「預言者」として神のことば、神の意志を民に告げ知らせます。

このメシアは、ユダヤ人が待ち望んだイスラエルの国を復興する「救い主」でした。「救い主」として来られるイエス様は、私たちにとっては罪からの救い主であり、待ち望む国とは、「神の国」であるのです。(メシア=救い主。中間時代のユダヤ人がこの称号を用いるようになった)。

イエス様は、十字架で信じるすべての人の罪を負う為、罪人のかしらとなって罰を受けられました。各自が「あなたはキリストです。」と告白できることは、「あなたは、私のキリストです。」となるのです。私とイエス様の関係がはっきりすることなのです。

3. 誰にも言わないように、との戒め (30 節)

まだ時が来ていないからでした。その時とは、9章9節にあります。

人の子が死人の中からよみがえる時、にはイエスがキリストであることを話して良いということです。そのときこそ、話すべきということです。

結語

では、私たち自身はどうイエス様を見ているでしょう。どう答えますか？

イエスはキリスト・メシアです。三つの職務を持つお方で私たちに関わってくださった救い主です。この神であるお方が、私の為に命を投げ出してくださいました。私たちを神の子としてくださいました。

今、神の子としていただいた私たちは、イエス・キリストを信じ、信頼し、愛しています。イエス様が私を愛して下さったからです(ヨハネ 15:9、11~17)。私たちも「私はあなた(イエス様)を愛しています。」と告白するのです。イエス様は既によみがえられました。ですから、私たちは、「イエスこそキリスト」、「救い主である」と人々に告げ知らせることが許されています。